

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデスナイン・ブルー	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.572	△RG 0.060	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ナノデスナイン・ブルー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：ナノデス・ナイン

フレアーの幅 インチ

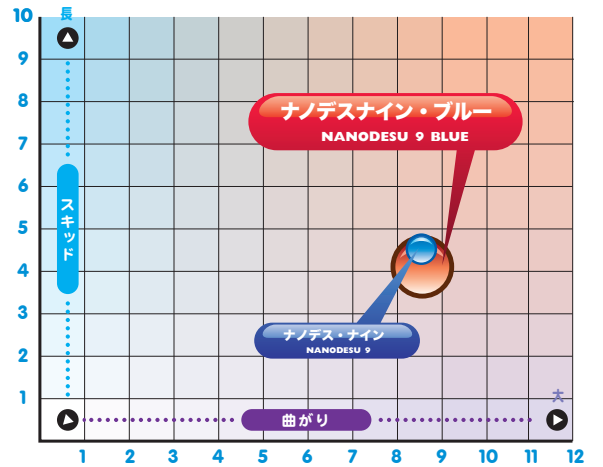
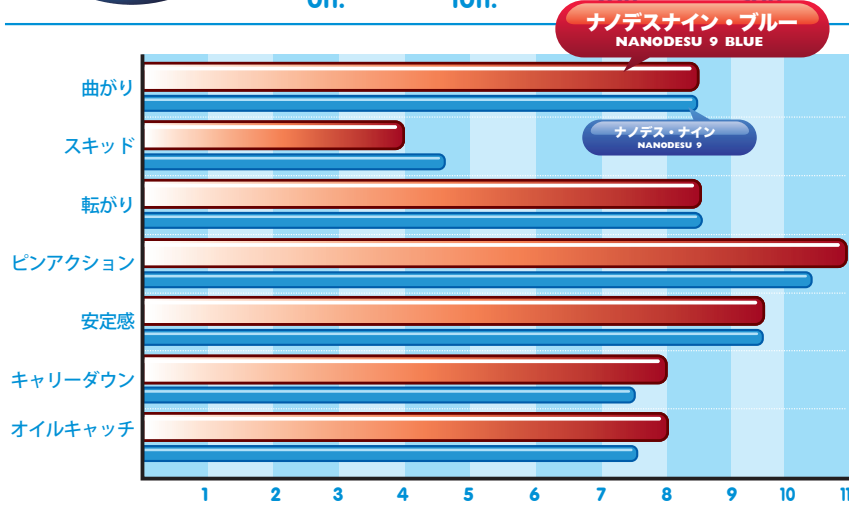
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

ABSは日本エボナイト社と共に開発を進め、2020年3月に業界初の8ポンドコアを搭載したナノデス8を発売しました。その後エイトブラックを経て業界最重量コアのナノデス9を発売するなど、技術の最先端を走り、業界をリードしています。今回のナノデス9 ブルーは9ポンドコアが持つ特性を様々な角度から検証し、バックエンドでの動きとオイル上での安定性の両立をさらに高める為、スペックを再構築しました。

ナノデス8開発時から感じていたことですが、コアが重くなるほど直進性は増し、曲がりははじめが遅くなる傾向が現れます。カバーストックと表面仕上げ、コアとのマッチングは非常に重要で、その曲がり方と入射角はピンキャリアと密接に関わり、影響を及ぼします。ナノデス9 ブルーは9ポンドコアが持つ破壊力を最大限活かし、出来るだけエネルギーロスを抑えてヒッティングパワーに伝達できるよう、様々な素材と表面加工を用いてテストを行い、パフォーマンスを見極め、そのノウハウを結集しました。いつもテストして感じることですが、ナノデスの8・9ポンドコアは投球してピンに当たった時にその飛び方で見極められるぐらいピンの飛ばし方が独特であり、重厚感があります。その重厚感をポケットヒットでロスさせない伝達方法は「動きを止め過ぎないブレーキング」でナノデス9のナノタン 3.0 ソリッド #4000番からナノタン 2.0 ソリッド #2000番に仕様変更したのも、マーキングにも示された「∞(無限にピンを弾く)」が念頭にあるからです。ナノデス9 ブルーはナノデスシリーズでも劇的に動きが出るボールではありませんが、コアが持つ慣性の高さと重いヒッティングパワーを武器に、他のナノデスシリーズにはない性能を出してくれます。

特記事項

ナノデス9の性能をさらに向上させ、曲がり始めの安定感と9ポンドのコアのパワーを最大限ヒッティングパワーに伝達できるよう再構築されたボールがナノデス9 ブルーです。